

---

# 不器用な輪舞曲

たまはる

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

不器用な輪舞曲

### 【Nコード】

N2171F

### 【作者名】

たまはる

### 【あらすじ】

王宮の王座の間に裏切り者の男が一人足元には少女が一人そしてはじまり・・・

## 序章 「風の鳴く日」

騒がしい音が聞こえてくる・・・鎧が奏でる聞きなれた金属音  
聞きなれてはいるが、何時までたっても好きになれそうにない音が  
大量に押し寄せてくる       だが       ソレハ       タブン

「まあ、なるようにしかならないか・・・」

王座の前で一人つぶやいてそのときを待つ・・・いや独りではな  
いか

足元で倒れている少女のまるで人形のように整った顔を眺める。  
床に広がった金色の髪はそのまま光になって溶けてしまいそうに  
なるほど輝いている。

「あいかわらず見た目だけは女神だなこりゃ・・・」  
と、本人が聞いたなら怒り狂いそんな言葉を投げかける。  
いや、「そうな」じゃなく、確実に、だ。

そうしてしばらくその顔を眺めて続いていた。  
耳にはどんどん大きくなっていく鎧の音を捉えながら・・・  
どれほどの時間がたったのか感覚が曖昧になってきたころ  
すべての音が一瞬消えさった。

「ついに追っ手のお出ましか」

そう言葉にした次の瞬間王座の間の扉が勢いよく開け放たれた

「祖国を裏切った大逆の罪人グレン・リヴェイユ！」

お前の企みもここまでだ！このレイス・ランカスト  
が姫様をお救いし、貴様に引導を渡してやる！！」

そう言つて現れたのはこれまた金髪の騎士だった

「その頭悪いひねりのない口上はどうかと思つぞ」

「うるさい！裏切り者の言葉なんぞ聴く耳もたん」

（というか、最初に来たのがこいつとは・・・ついてるんだか、ないんだか・・・）

（騎士団長のサイクスの爺さんとかだったら逃げるのは難しかったかもなあ・・・）

「聞く耳持たないのは昔からだろ・・・」

「ともかく貴様の悪行もこれまでだ！おとなしく  
自分の罪を悔いながら私に斬られるがいい」

「いや、それは無理」

「何故だ！」

「男に斬られるなんて死んでもごめんだね」

「はあ！？」

「まあそーゆーわけだから逃げるわ、俺」

「は？ちょ、ちよつとまで」

「あ、リース姫は置いてってやるから自分の手柄にしるよ」

「い、いや、だから・・・」

まだ何か言おうとする騎士を尻目にテラスに向かって歩き出す最後に少女の顔を一瞥しながら・・・

「まあ、いろんな意味でさよならだ」

そして一気に加速をつけテラスから一気に飛び降りる！！

「ま、まて！！」

騎士があわてて後を追いつグレンが飛び降りたテラスに駆け寄り下を覗き込む・・・

そのとき風を切り裂くような咆哮が城全体を揺さぶった

「あれは守護竜レイテヴァヌス・・・」

騎士が見たのは翼を広げる白き荘厳な竜とその背に立つグレンの姿・

「あいつめ、祖国を裏切っただけでなくわが国の象徴をも強奪して行く気か！！逃がしてなるものか！！」

踵を返して後を追おうとした瞬間、床に倒れた姫の姿を見てあわてて踏みとどまる

「まずは姫様を安全な場所にお連れせねば・・・」

姫のそばに駆け寄りそつと抱える、そして後続の仲間と合流すべく走り出した

「しかしあいつめ必ず私の手で引導を渡してやる」

走りながらも決意を新たにする、そして・・・

「やってやるぞおおおお！！！！」

と決意を新たにした瞬間、腕の中の少女が目を見開いた！

「うるさあああああああ！！！！」

繰る出される右こぶし、避ける暇もなく騎士は夢の世界へいざなわれていった・・・

「なんか聞こえたような・・・」

グレンの耳に風に乗ってなにか届いたような気がした

「まあ気のせいか・・・」

風をきって飛んでいる今はそんなことはささいなことだ

この飛んでいる感覚は何にも変えられないほど素晴らしいものだ

「さあ、レイテ・・・どこに行こうか？」

足元の竜に話しかける

だが竜は人の言葉は操れない

しかし風を切り裂くあの咆哮で高らかに応えた

「まあ、とりあえず気の向くままいこうか」

それに対してグレンはそう応える

そしてそのまま一人と一匹はるか大空へと羽ばたいていった

序章 「風の鳴く日」 完

## 序章 「風の鳴く日」 (後書き)

お読みいただいた方ありがとうございます  
世界観とか設定とかは今後物語の中で書いて  
行く予定です

つたない文章ですがよろしく願います

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2171f/>

---

不器用な輪舞曲

2010年11月29日07時48分発行